

北海道畜産草地学会
会員各位

ワークショップ

「草地における草種構成の改善と維持管理」

現在、北海道の草地では、地下茎型イネ科草やギシギシ類などの増加による草種構成の悪化と、それに伴う収量・粗飼料品質の低下が深刻な問題となっている。草地更新率3%台といわれる現状からは、単に公共事業費の削減を嘆くばかりでなく、草地を更新してもすぐにもとの草種構成に戻るといふ生産現場の諦めの声が聞こえてくる。確かに近年の草地では、更新後の草種構成の悪化が30年前よりも速やかである。しかし、その理由には新規入植から世代を超えて徐々に進行してきた侵入草本の種類の変化や埋土種子の蓄積があり、それに対応した防除の重要性に気づいていない生産現場の実態が明らかになってきた。これを受け、現在道内では関係機関をあげて草地の草種構成を改善する取り組みが展開されている。生産現場で特に関心を集めるのは、侵入性の高い雑草に対する様々な化学的、耕種的抑制対策や、自家更新に適用可能な簡易更新工法などである。しかし、対象草地における草種構成の悪化要因が慣行の草地管理にある場合には、せっかく草地を更新しても、本来の維持可能年限は期待できない。生産現場では、現状の草種構成の改善に関心を寄せるあまり、改善後の維持管理の重要性に対する認識の不十分さが懸念される。

そこで本ワークショップでは、現在の草地における草種構成の悪化要因を整理し、それに対応した雑草対策研究と生産現場で展開されてきた草種構成改善対策の実際を紹介して頂くとともに、草種構成改善後における維持管理技術の重要性についてあらためて関係者の共通認識を得た上で、今後の草種構成改善活動の方向性について論議する。

ワークショップ提案者 三枝俊哉（酪農学園大学）

日 時 2015 年 12 月 10 日 木曜日 9:00 から 12:00

場 所 かでる 2.7 道民活動センタービル 8 階 820 研修室

（札幌市中央区北 2 条西 7 丁目）

参加費 無料

開会 9:00

話題提供 9:05～10:55

- 草地の草種構成悪化の原因と雑草対策（9:05～9:45）

佐藤尚親 氏（道総研根釧農試）

- 草種構成改善対策の実際（9:45～10:25）

龍前直紀 氏（TACS しべちゃ）

- 草地更新は問題解決の切り札かー更新後の維持管理こそ重要（10:25～11:05）

松中照夫 氏（ホクレン農業協同組合連合会）

総合討論 11:15～12:00